

特選

高齢運転者の心得

別府市 上野口町二区老人クラブ福寿会
市丸宗 臣 (83歳)

私は八十三歳、運転歴六十四年余、無事故運転継続中で、今でも毎日運転し、年間一万軒は走行している。

昭和二十七年、警察予備隊（現陸上自衛隊）に入隊、車両一筋に勤務し厳しい訓練を受け、指導もしてきた経験から、高齢者の安全運転について、私見を述べ事故防止の一助にでもなればと思いい、投稿した次第である。

ある調査によると、高齢者の多くは「自分は運転には自信がある」と答えている。果たしてそうであろうか？ そうだとしたら高齢者による交通事故は激減しているはずであるが増加しているのが

く、車間距離を取るとともにスピードを控え、ブレーキを早めに踏むことで事故は防ぐことができる。心掛けよう。

死亡事故が最も多かった昭和四〇年代の標語に「だろっ、よかろっ、事故のもと」があったが、見込運転は危険、適正な判断をすることが必要である。

道路交通法は、信用の原則に基づいているが、予測しがたい行動を取る人がいることを、忘れてはいけない。現職時代「老人と子供・女性」には注意せよ、と教育したものであるが、今もその気持ちは変わらない。

運転には相手の行動がある事を忘れてはいけない。ついついっかり考え事をしていた等により、運転行動を誤る場合があることを認識し防衛運転にも心掛ける必要がある。

実は、私も追突事故に二度遭い、被害者の苦し

現状である。

運転は「視覚反応」によって実行されているものであって、自信があると思っても、現実はそのではない。高齢による老化現象から、視野は狭くなり、視力も低下、判断力は鈍り、動作は遅くなるものである。したがって対応動作は、若い時より大きく衰えている事を理解することが必要である。

運転は、真剣勝負である。やり直しはきかない。あの時こうすれば事故にならなかったでは間に合わない。事故は「やるべき事をやらず、やってはいけない事をやった場合に発生するものである。自分の技倆を過信することなく、常に運転に集中することが必要である。

警察の指導では、一、スピードを落とす。二、早めのブレーキ。三、車間距離の確保。とあるがその通りである。事故の中では追突事故が最も多
みを味わっている。一旦事故を起こせば、被害者、加害者その家族共々事故直後から被害者となり、人生を狂わせ不幸にする。

運転に不安を感じる人は、免許証の自主返納等により、運転しないに越した事はないが車無くして生活に困る人もいると思われる。運転するからには「安全運転第一」運転に集中し、事故を無くそう。

高齢者頑張ろう！

